

DIGITAL PIANO

P-S500

取扱説明書

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器は、流れる光によるサポートで、お気に入りの曲の演奏を気軽に楽しめる電子ピアノです。本書をよくお読みになって、この楽器に搭載された機能を十分にご活用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

ご使用の前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。



スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」(20ページ)

この楽器はスマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」と一緒に使うことで、直感的な操作で、より多くの機能をお楽しみいただけます。

取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書が用意されています。

冊子マニュアル



取扱説明書(本書)

この楽器の使い方について説明しています。

電子マニュアル(PDF形式)



データリスト

ボイスやスタイルのリストと、MIDIに関する資料が掲載されています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、データを送受信する方法などを説明しています。

これらのマニュアルは、下記ウェブサイトの「取扱説明書」のページからご覧いただけます。

ヤマハ サポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

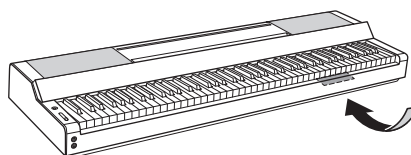
付属品(お確かめください)

- ☐ 取扱説明書(本書) (1)
- ☐ 製品登録のご案内 (1)
- ☐ 保証書 (1)
- ☐ 電源アダプター (1)、電源コード (1)
- ☐ 譜面立て (1)
- ☐ フットスイッチ (1)

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号



銘板は、製品の底面にあります。

(bottom_ja_02)

目次

取扱説明書について	2
付属品(お確かめください)	2
安全上のご注意	4
ご注意	8
お知らせ	8
特長 ～スマートデバイスで広がるピアノの世界～	10
各部の名称	12
操作パネル	12
背面パネル	13
ご使用前の準備	14
電源を入れる/切る	14
音量(マスターボリューム)を調節する	15
譜面立てを取り付ける	16
ペダル(フットスイッチ)を使う([AUX PEDAL]端子)	17
別売のペダルユニットとキーボードスタンドを使う([PEDAL UNIT]端子)	17
ヘッドホンを使う([PHONES]端子)	19
スマートピアニストを使って楽しむ	20
スマートピアニストをインストールする	20
スマートピアニストと接続する	20
本体だけで演奏を楽しむ	24
さまざまな音色(ボイス)で弾く/[VOICE]	24
自動伴奏(スタイル)と一緒に演奏する/[STYLE]	24
曲(ソング)を再生する/[SONG]	25
テンポを調節する/[TEMPO]	26
ガイド機能を使ってストリームライツに合わせて練習する/[GUIDE]	26
メトロノームを使う/[METRONOME]	27
さまざまな機能の設定をする(ファンクション)/ [FUNCTION]	27
設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)	29
他の機器と接続する	30
スマートデバイスを接続してアプリを使う ([iPad]端子/[USB TO HOST]端子/[USB TO DEVICE]端子)	30
外部オーディオ機器と接続する([AUX IN]端子、AUX OUT [R]/[L/L+R]端子)	30
マイクを接続する([MIC INPUT]端子)	31
コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)	32
オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能) ([USB TO HOST]端子、[iPad]端子)	33
困ったときは	34
仕様	35
索引	38

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号

■ 「警告」「注意」「ご注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

ご注意

「故障、損傷や誤動作、データの損失の発生が想定される」内容です。

電源アダプターについて



警告



禁止

ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。

電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。



禁止

電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水のいった物、花瓶などを機器の上に置かない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



注意



必ず実行

製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

楽器本体について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの（35ページ）を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

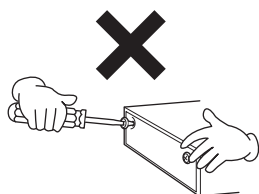
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもろそくなど火気のあるものを置かない。

もろそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



電源プラグを抜く

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおい煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

地震のときは、本体から離れる。

地震による強い揺れで本体が動いたり転倒したりして、けがをするおそれがあります。



必ず実行

この製品を持ち運びする場合は、必ず2人以上で行う。

この製品を1人で無理に持ち上げると、腰を痛めたり、この製品が落下して破損したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。

コードをいためたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず本体の底面を持つ。

端子のくぼみ部分を持つと、端子や楽器本体が破損して、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンドを(17ページ)使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。



禁止

本体を壁に立てかけたり、端子のある面を下にして置いたりしない。

本体が倒れてけがをしたり、破損したりするおそれがあります。楽器を置くときは、机の上などに水平にして置かず、指定のスタンド(17ページ)をお使いください。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。
お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上にとったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、譜面立て、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々けがをしったりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。
聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを切った状態(電源ランプが消えている)でも微電流が流れています。[⏻](スタンバイ/オン)スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 適合品

ご注意

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。
- スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃～40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布、または水を含ませた柔らかい布を固くしぼってご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。鍵盤の汚れが目立つ時には、「ヤマハ 鍵盤クリーナー」のご使用をおすすめします。

■ データの保存に関する注意

- この楽器の一部のデータ(28ページ)は自動的に保存され、電源を切っても消えません。ただし保存されたデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切な設定は、スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」のレジストレーションメニューにて保存してください。

お知らせ

■ データの著作権に関するお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- この製品に内蔵または同梱されたコンテンツは、ヤマハ(株)が著作権を有する、またはヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物です。製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出し、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することについては、著作権法等に基づき、許されていません。
※上記コンテンツとは、コンピュータープログラム、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。
※上記コンテンツを使用して音楽制作や演奏を行い、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なくファームウェアをアップデートすることがあります。製品の機能を十分にお楽しみいただくため、最新バージョンにアップデートすることをおすすめします。最新のファームウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードすることができます。
<https://download.yamaha.com/jp/>
- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/サウンドデータを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/サウンドデータ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。

-  T-1990057

-  Nextone

■取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- 本製品の品番末尾のアルファベット(「B」「WH」)は、外装の色の情報を表しています。この取扱説明書では、品番末尾のアルファベットを省略しています。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、iPhone、iPad、iPod touch、Lightningは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- Android、Google Playは、Google LLCの商標です。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

■調律について

- 調律の必要はありません。

この楽器の対応フォーマット

GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張した音源フォーマットです。多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。GMシステムレベル2に対応したMIDI機器では、GMシステムレベル1で制作されたミュージックデータも再生できます。

* メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。

XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハが提唱する音源フォーマットです。このフォーマットで制作されたデータは、広く普及しているXG対応機器やPCソフトウェアで再生できます。

GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。

XF

ソングデータの代表的なフォーマットであるSMF(スタンダードMIDIファイル)をより拡張し、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のMIDIファイルのフォーマットです。

特長 ～スマートデバイスで広がるピアノの世界～

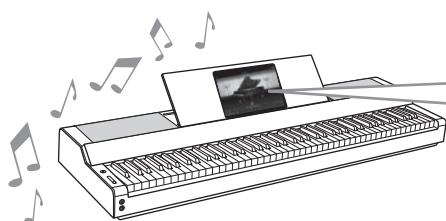
特長
スマートデバイスで広がるピアノの世界

スマートピアニストでピアノがもっと楽しくなる！

この楽器は、スマートデバイスアプリ「スマートピアニスト」と一緒に使うことで、好きな曲に合わせて弾いたり、アンサンブルをしたり、さまざまな機能を楽しめます。さっそく、スマートデバイスにアプリをインストールして、この楽器とつないでみましょう。

アプリの詳細、対応デバイス、入手方法については、以下のウェブサイトまたは、検索エンジンにて、「ヤマハ スマートピアニスト」で検索してください。接続方法については、20ページをご覧ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

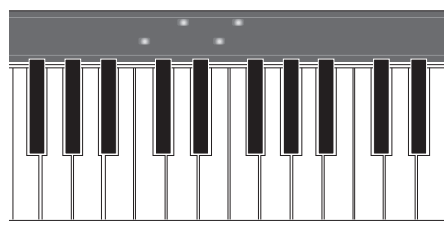


スマートデバイスアプリ
「スマートピアニスト」

好きな曲がすぐ弾ける！

この楽器は、ポピュラー曲、クラシック曲、レッスン曲といった多くの曲(ソング)を内蔵しています。スマートピアニストでは、これらのソングの楽譜を表示できます。楽譜を読むことが苦手な方には、「ストリームライツ」(26ページ)が次に弾く鍵盤をお知らせ。流れてくる光に合わせて、タイミングよく鍵盤を弾くだけでピアノ演奏を楽しめます。

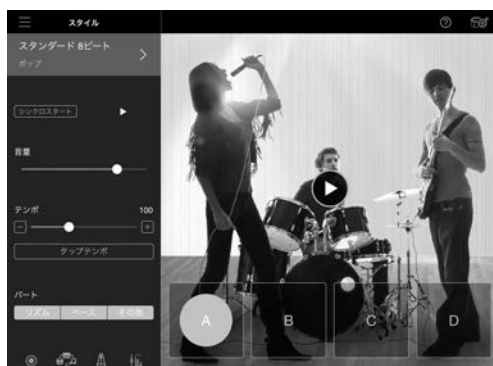
ガイド機能では、正しい鍵盤を弾くまで、ソングの再生が止まってくれるので、自分のペースで練習できます。片手ずつの練習や、指定した範囲をくり返し再生しての練習も可能です。



また、スマートデバイスに入れている曲からピアノ伴奏譜を自動的に作成する「オーディオトゥースコア」機能を搭載。楽譜を持っていなくても、曲に合わせてピアノの伴奏弾きを楽しめます。

アンサンブルや弾き語りを楽しもう！

ピアノだけでなく、オルガンやギター、サックスなどさまざまな楽器音(ボイス)で鍵盤を弾くことができます。2つのボイスを重ねたり、左右の手で別々のボイスを鳴らしたりもできます。また、1人でも豪華なアンサンブルを楽しめる自動伴奏(スタイル)機能も搭載。自分の演奏に合わせて、バックバンドがさまざまな音楽ジャンルの伴奏をしてくれます。さらにマイクをつなげば弾き語りも楽しめます。歌声には、ひとりで歌ってもコーラスパートがいるかのような豊かなハーモニーを付けられます。



お好みのピアノ音で演奏しよう！

ピアノ音源は、ヤマハ最高峰のコンサートグランドピアノCFXと、ウィンナートーンで有名なベーゼンドルファー社*のフルコンサートピアノから収録。スマートピアニストを使えば、演奏会場に応じた音の響き方や、グランドピアノの大屋根の開閉による音の変化も再現。お好みの音でピアノ演奏をじっくり楽しめます(ピアノルーム)。

*ベーゼンドルファー社はヤマハのグループ会社です。

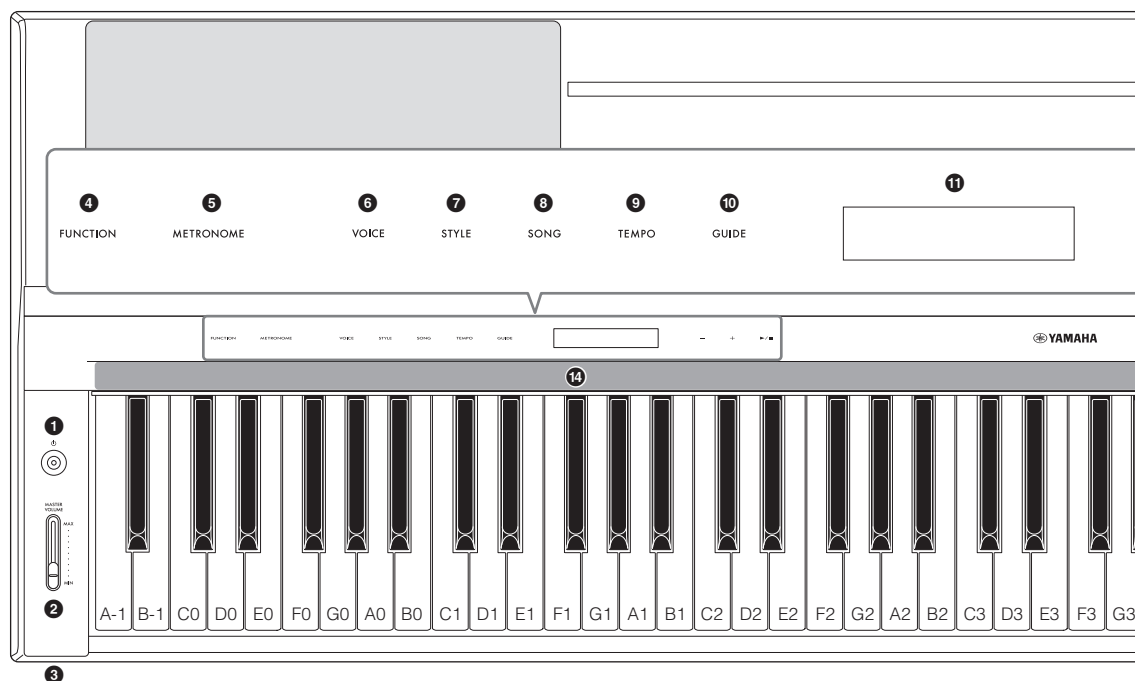


このほかにも、録音や、鍵盤演奏音とソング/スタイルの音量バランスの調節、ソングのトランスポーズ(移調)など、さまざまな機能があります(36ページ参照)。スマートピアニストを使って、この楽器の魅力を充分にお楽しみください。

NOTE

記載している画面は、本書発行時点での最新仕様です。画面および仕様は、改良のため変更されることがあります。

各部の名称



操作パネル

① [⏻] (スタンバイ/オン) スイッチ (14 ページ)

電源のスタンバイ/オンを切り替えます。

② [MASTER VOLUME] スライダー (15 ページ)

楽器全体の音量を調節します。

③ [PHONES] 端子 (19 ページ)

ヘッドホンを接続します。

PHONES

④ [FUNCTION] ボタン (27 ページ)

トランスポーズやチューニングなど、さまざまな機能の設定画面を表示します。

⑤ [METRONOME] ボタン (27 ページ)

メトロノームを鳴らします。

⑥ [VOICE] ボタン (24 ページ)

ボイス選択画面を表示します。

⑦ [STYLE] ボタン (24 ページ)

スタイル選択画面を表示します。

⑧ [SONG] ボタン (25 ページ)

ソング選択画面を表示します。

⑨ [TEMPO] ボタン (26 ページ)

テンポ設定画面を表示します。

⑩ [GUIDE] ボタン (26 ページ)

ガイド機能の設定画面を表示します。

⑪ 画面

楽器の状態を表示します。

⑫ [-]/[+] ボタン

ボイスやスタイルなどを選んだり、テンポなどの設定値を変更したりします。押し続けると連続して値が切り替わります。[-] ボタンと [+] ボタンを同時に押すと、初期設定に戻せます。

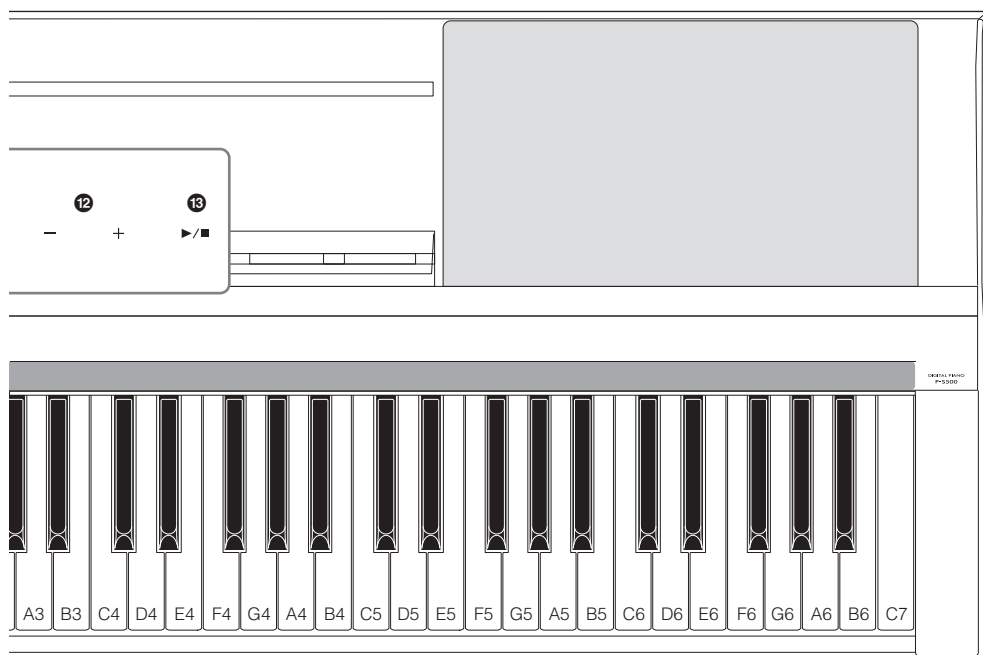
⑬ [▶/■] (スタート/ストップ) ボタン (25 ページ)

ソングやスタイルを再生したり、停止したりします。

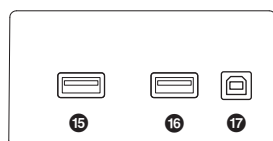
⑭ ストリームライト (26 ページ)

各鍵盤の上部に4つのランプが埋め込まれています。ソングの再生に合わせて、上から流れるように光り、弾く鍵盤の位置と弾くタイミングを教えてください。

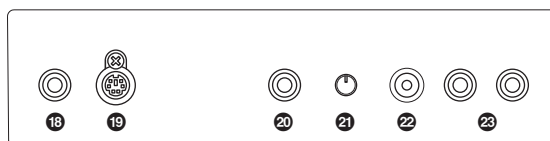
操作ボタンと画面は、電源を入ると表示されます。



背面パネル

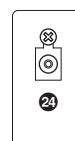


← トゥーデバイス
USB TO DEVICE iPad 5V 2.1A ← トゥーホスト
USB TO HOST



AUX PEDAL PEDAL UNIT

MIC INPUT MIN MAX MIC VOLUME AUX IN R L/L+R AUX OUT



24V + -

- 15 [USB TO DEVICE]端子(22ページ)**
USB無線LANアダプター (別売)を接続します。
- 16 [iPad]端子(21、33ページ)**
Lightningコネクタを搭載したスマートデバイスを接続します。
- 17 [USB TO HOST]端子(21、32、33ページ)**
USB Type-Cコネクタを搭載したスマートデバイスや、コンピュータを接続します。
- 18 [AUX PEDAL]端子(17ページ)**
付属のフットスイッチや、別売のフットペダル、フットスイッチを接続します。
- 19 [PEDAL UNIT]端子(17ページ)**
別売のペダルユニットを接続します。

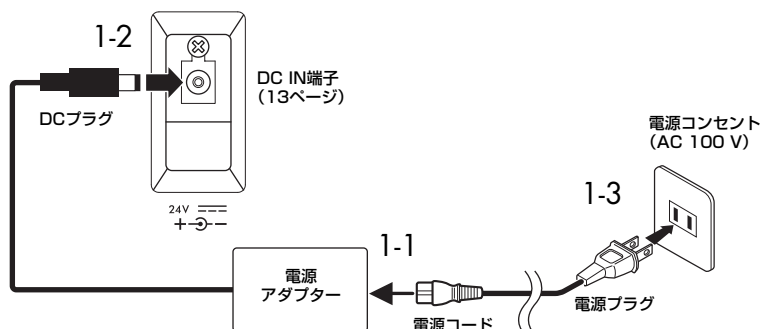
- 20 [MIC INPUT]端子(31ページ)**
マイクを接続します。
- 21 [MIC VOLUME]つまみ(31ページ)**
[MIC INPUT]端子からの入力音の音量を調節します。
- 22 [AUX IN]端子(30ページ)**
携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ再生機器を接続します。外部機器でのオーディオ再生音をこの楽器のスピーカーで鳴らせます。
- 23 AUX OUT [R]/[L/L+R]端子(31ページ)**
スピーカーなどのオーディオ機器を接続します。この楽器の音を外部機器のスピーカーで鳴らせます。
- 24 DC IN端子(14ページ)**
電源アダプターを接続します。

ご使用前の準備

簡単な準備だけでピアノ演奏を楽しめます。

電源を入れる/切る

1 図の順序で電源アダプター、電源コードを接続します。



⚠ 警告

- 電源アダプターは、必ず指定のもの(35ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。
- 電源コードは、必ず付属のものをご使用ください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。故障、発熱、火災などの原因になります。

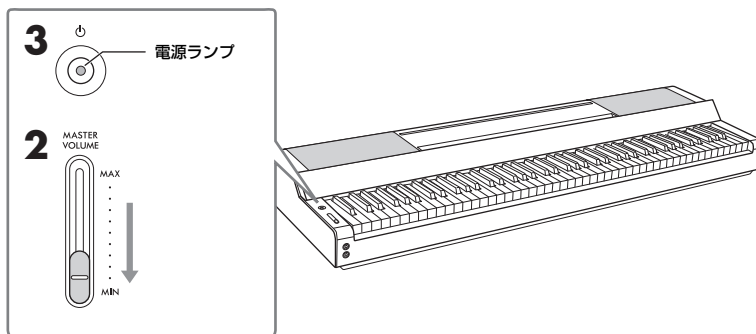
⚠ 注意

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに楽器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源コード/電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の手順で行ってください。

2 [MASTER VOLUME]スライダーをいちばん下まで動かし、音量を最小(MIN)にします。



3 [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。

[⏻](スタンバイ/オン)スイッチにある電源ランプが点灯し、操作ボタンが表示されます。

4 音量を調節します。

鍵盤を弾いて音を出しながら、[MASTER VOLUME]スライダーを少しずつ動かして、音量を調節します。

5 楽器を使い終わったら、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを1秒押して電源を切ります。

画面の表示や操作ボタンが消え、電源ランプも消灯します。

⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

ご注意

- 電源を入れてから、楽器が完全に起動するまで(操作ボタンが表示されるまで)、楽器を操作(鍵盤を押す、ペダルを踏むなど)しないでください。楽器が誤動作する原因になります。
- やむを得ず強制終了したい場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押してください。ただし、強制終了すると、データが失われたり、楽器や外部機器が故障したりする場合があります。

オートパワーオフ機能

この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では15分ですが、スマートピアニストの[ユーティリティ] → [システム]で変更できます。

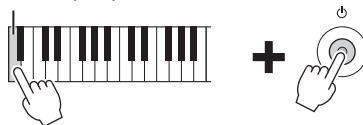
ご注意

オートパワーオフ機能により電源が切れると、保存していないデータは失われます。

オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ機能が解除された状態で起動します。

左端の鍵盤(A-1)



NOTE

オートパワーオフ機能の有効/無効は、[FUNCTION]ボタンを使って切り替えられます(28ページ)。

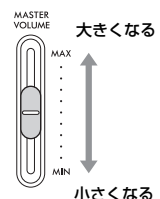
音量(マスターボリューム)を調節する

[MASTER VOLUME]スライダーを動かして音量を調節します。

実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

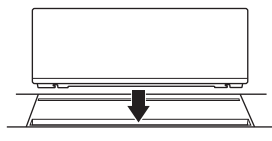


インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)

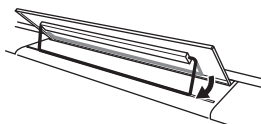
IACとは、楽器の全体音量の大小に応じて、自動的に音質を補正する機能です。音量が小さい場合でも、低音や高音がしっかりと聞こえるようになります。IACは、この楽器のスピーカーからの出力音のみに有効です。初期設定ではこの機能はオンです。スマートピアニストの[ユーティリティ] → [音響設定]で、オン/オフを切り替えたり、効果のかかり具合を調節したりできます。

譜面立てを取り付ける

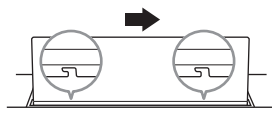
- 1 譜面立てを本体の溝に差し込みます。



- 2 譜面立ての背面にあるスタンドを溝にはめ込みます。



- 3 譜面立てを、右へスライドさせて固定します。



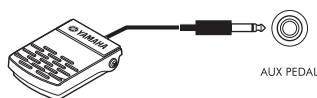
譜面立てを取り外すときは、左へスライドさせてから持ち上げます。

注意

- スタンドが溝に入り譜面立てがしっかりと固定されていることを確認してご使用ください。また、楽器の移動時には、譜面立てから楽譜やスマートデバイスなどを下ろしてください。けが、または楽器やスマートデバイスの破損の原因になります。
- 譜面立てを取り付けたり取り外したりするときは、手や指をはさまないように注意してください。

ペダル(フットスイッチ)を使う([AUX PEDAL]端子)

付属のフットスイッチを[AUX PEDAL]端子に接続します。ピアノのダンパーペダルと同様、フットスイッチを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます(サステイン機能)。別売のフットペダルFC3Aや、フットスイッチFC4A、FC5も接続できます。FC3Aではハーフペダル機能(18ページ)が使えます。



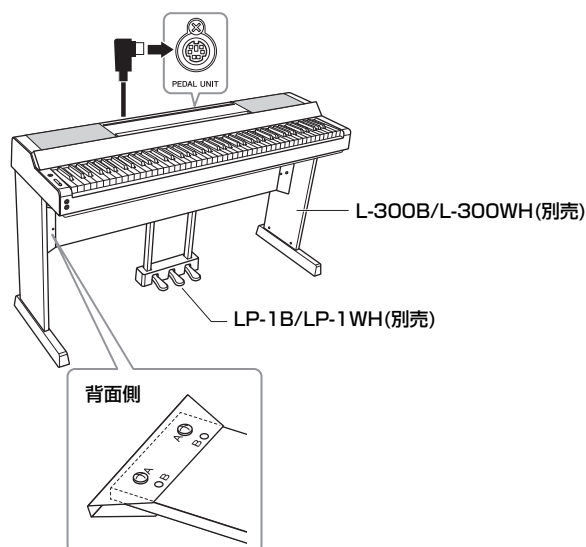
スマートピアニストの[ユーティリティー] → [ペダル設定]で、ペダルの機能を変更できます。「スタイルスタート/ストップ」などさまざまな機能があります。

NOTE

- フットスイッチ/フットペダルのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- フットスイッチ/フットペダルを踏んだまま電源を入れないでください。フットスイッチ/フットペダルのオン/オフが逆になります。

別売のペダルユニットとキーボードスタンドを使う([PEDAL UNIT]端子)

別売のペダルユニットLP-1B/LP-1WHを[PEDAL UNIT]端子に接続すると、3本ペダルを使って演奏できます。ペダルユニットは、必ず別売のキーボードスタンドL-300B/L-300WHに取り付けてお使いください。L-300B/L-300WHのアタッチメント金具には、AとBのネジ穴があります。P-S500で使う場合は、Aのネジ穴を使ってください。詳しくは、キーボードスタンドに付属の組立説明書をご覧ください。



NOTE

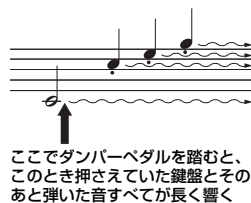
- ペダルユニットのケーブルの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- ペダルを踏んだまま電源を入れないでください。ペダルのオン/オフが逆になります。

ペダルユニットの機能

初期設定では、各ペダルに下記の機能が割り当てられています。スマートピアニストの[ユーティリティー] → [ペダル設定]で、スタイルのスタート/ストップなど他の機能を割り当てることもできます。

■ ダンパーペダル(右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音が長く響きます(サステイン機能)。このペダルは、ハーフペダル機能(下記)に対応しています。



■ ソステヌートペダル(中央のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけが、鍵盤から指を離しても長く響きます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果がかからないので、和音を長く鳴らしながらメロディーをスタッカートで弾くことができます。



■ ソフトペダル(左のペダル)

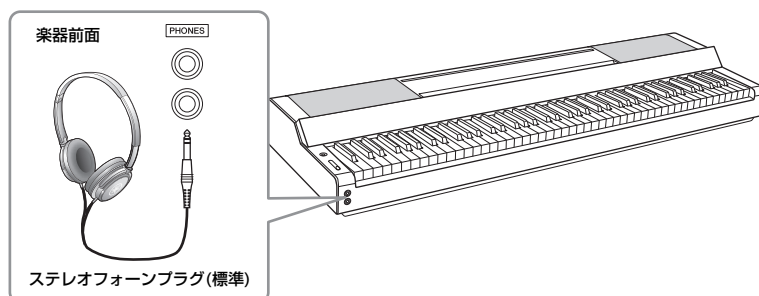
このペダルを踏むと、音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果がかからないので、効果をかけたい場合は、ペダルを踏んでから鍵盤を弾きます。

ハーフペダル機能(LP-1B/LP-1WH/FC3A)

別売のペダルユニットLP-1B/LP-1WHの右のペダルやフットペダルFC3A (17ページ)では、この機能が使えます。ペダルの踏み加減で音の伸び具合を調節できる機能です。ペダルを踏んで音が響きすぎたとき、踏み込んだ状態からペダルを少し戻して音の響きを抑える(音の濁りを減らす)ことができます。どの程度踏み込んだらハーフペダル効果がかかるか(ハーフペダルポイント)は、スマートピアニストの[ピアノルーム]で設定できます。

ヘッドホンを使う([PHONES]端子)

ヘッドホンは、[PHONES](フォーンズ)端子に接続して使います。[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドホンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドホンでも自然な音の広がり再現する(バイノーラルサンプリングとステレオフォニックオプティマイザー)

この楽器では、ヘッドホン使用時に臨場感のある音をお楽しみいただくため、以下の2つの方式を採用しています。

■ バイノーラルサンプリング(「CFX グランド」のボイスのみ)

バイノーラルサンプリングとは、演奏者の耳と同じ位置に専用のマイクを備え付け、聞こえてくるピアノの音をそのままサンプリングする方式です。ヘッドホンを通して聞いても、あたかもピアノ本体から音が響いてくるような臨場感をお楽しみいただけます。長時間の演奏でも耳が疲れにくく自然に演奏できます。「CFX グランド」を選んでいるときにヘッドホンを接続すると、バイノーラルサンプリングの音に切り替わります。

サンプリングとは

アコースティック楽器の音を録音して電子ピアノに組み込む技術のことです。

■ ステレオフォニックオプティマイザー(「CFX グランド」以外のVRMボイス)

ステレオフォニックオプティマイザーは、ヘッドホン使用時に自然な音の広がりを再現するエフェクトです。「CFX グランド」以外のVRMボイスを選んでいるときにヘッドホンを接続すると、ステレオフォニックオプティマイザーがかかります。

どのボイスがVRMボイスかは、ウェブサイト上のデータリストでご確認ください。

VRM (Virtual Resonance Modeling/バーチャル・レゾナンス・モデリング)とは

アコースティックピアノでは、ダンパーペダルを踏んで演奏すると、弾いた鍵盤の音が伸びるだけでなく、その鍵盤の弦の振動が他の弦や響板へ伝わっていき、それぞれが影響しあって豊かで華やかな共鳴音が広がります。この楽器に搭載されたVRMは、そのような弦と響板の複雑な相互作用を、仮想的な楽器(物理モデル)の上で忠実に再現することで、よりアコースティックピアノに近い響きを作り出します。鍵盤やペダルの状態に合わせて、瞬間瞬間の共鳴音を作り出しているため、鍵盤を押さえるタイミングや、ペダルを踏むタイミングと深さを変えることで、多彩な響きが得られます。

スマートピアノニストを使って楽しむ

この楽器は、スマートデバイスと接続してアプリ「スマートピアノニスト」を使うことでより楽しさが増します。アプリでは、録音やレジストレーションメモリーなど、多くの機能が使え、また、カラー画面で見やすく表示されるので直感的に操作できます。

楽器だけでできること、スマートピアノニストを使ってできること、の一覧が36ページにありますのでご覧ください。

ご注意

スマートピアノニストに接続すると、楽器の設定は、スマートピアノニストで設定した内容に変更されます。

スマートピアノニストをインストールする



スマートピアノニストを入手して、スマートデバイスにインストールしましょう。

- iPadOS/iOS: App Storeで入手可能
- Android: Google Playで入手可能

アプリの詳細、対応デバイスについては、下記のウェブサイトをご覧ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

スマートピアノニストと接続する

この楽器とスマートデバイスは、USBケーブルまたはWi-Fi（無線LAN）で接続できます。スマートピアノニストの「接続ウィザード」によって、使用環境に応じた接続方法を確認しながら接続します。

1 スマートピアノニストの画面左上の「≡」アイコンをタップし、メニューを開きます。

2 [楽器]をタップし、楽器接続画面を開きます。

3 画面下部の[接続ウィザードを開始する]をタップします。



4 接続ウィザードに従って操作します。

接続に成功すると、画面左下の[楽器]の横に「P-S500」と表示されます。スマートピアノニストとの接続中は、楽器本体の操作ボタンは消灯します。操作にはスマートピアノニストを使ってください。

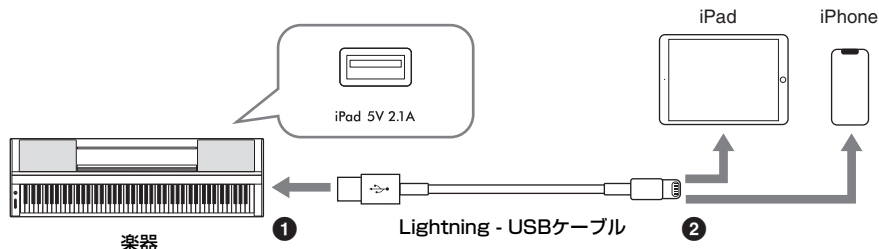
ケーブル接続例

NOTE

[iPad]端子と[USB TO HOST]端子の両方にスマートデバイスを接続して同時に使うことはできません。

■ Lightningコネクタ搭載デバイス(iPhone、iPadなど)

Lightning - USBケーブルを使って、[iPad]端子に接続します。この場合、iPhoneやiPadを充電しながら使用できます。

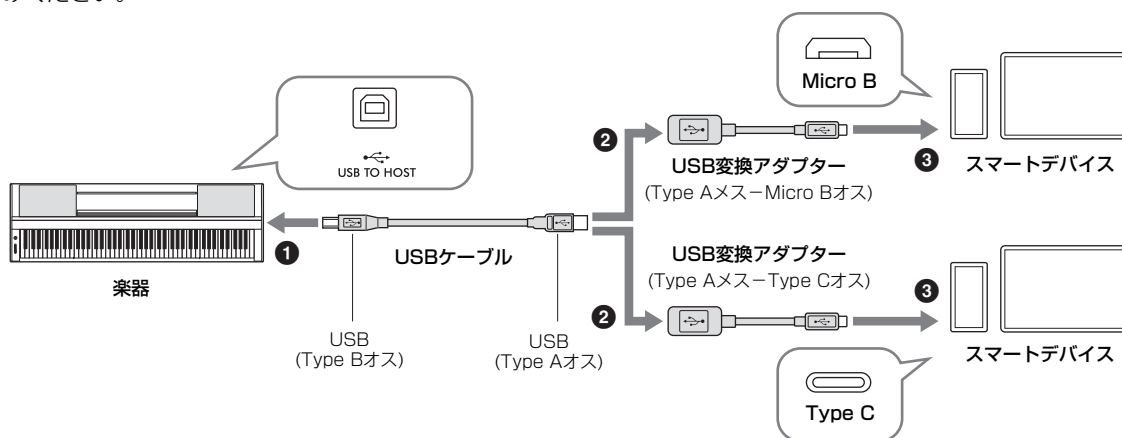


ご注意

- [iPad]端子は、iOS/iPadOS専用です。他の機器を接続しないでください。
- Lightning - USBケーブルは、3m未満のApple純正のケーブルをご使用ください。

■ Micro BまたはUSB Type-Cコネクタ搭載デバイス

デバイスのコネクタ形状に合ったUSB変換アダプターとUSBケーブルを使って、[USB TO HOST]端子に接続します。[USB TO HOST]端子を使う前に、必ず「[USB TO HOST]端子ご使用上の注意」(22ページ)をお読みください。



iPadOSのUSB Type-Cコネクタ搭載デバイスは、Apple USB-CデジタルAVマルチポートアダプタ、またはApple USB-C VGAマルチポートアダプタを使って接続することもできます。

NOTE

- [USB TO HOST]端子を使った接続では、スマートデバイスに充電できません。
- すべての市販のUSB変換アダプターが動作するわけではありません。

[USB TO HOST]端子で使用上の注意

[USB TO HOST]端子でスマートデバイスと接続するときは、スマートデバイスや楽器本体の停止(ハングアップ)によるデータの損失を防ぐため、以下のことを行ってください。

ご注意

- USBケーブルはABタイプで、3メートル未満のものをご使用ください。USB3.0ケーブルは、使用できません。
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しをする前に、以下のことを行ってください。
-すべてのアプリを終了させてください。
-本体からデータが送信されていないか確認してください。(鍵盤を演奏したりソングを再生させたりしても、本体からデータが送信されます。)
- 本体の電源オン/オフやUSBケーブルの抜き差しは、6秒以上間隔を空けて行ってください。

スマートデバイスや本体が停止したときは、アプリやスマートデバイスを再起動するか、本体の電源を入れ直してください。

Wi-Fi (無線)接続例

Wi-Fi接続には、別売の無線LANアダプター (UD-WL01)が必要です。無線LANアダプターを接続する前に、必ず「[USB TO DEVICE]端子で使用上の注意」(下記)をお読みください。



ご注意

本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。

NOTE

アクセスポイントを使用せずに楽器とスマートデバイスと直接Wi-Fiで接続できます。この場合、スマートデバイスはインターネットに接続できないため、メールやネット検索、スマートピアニストの一部機能が制限されます。

[USB TO DEVICE]端子で使用上の注意

[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続するときは、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご覧ください。

■ 使用できるUSB機器

- USB無線LANアダプター (UD-WL01/別売)
- USBフラッシュメモリー (ソフトウェアのアップデートのときのみ使用します。データの保存、読み込み、録音、再生などはできません。)

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

ご注意

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。

ご注意

- USB機器の抜き差しは、USB機器へのアクセス中には行わないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

スマートピアニストとの接続を解除するには

スマートピアニストとの接続は、アプリを終了することで解除できますが、以下の方法でも可能です。
接続を解除しても、楽器の電源を切るまでは、スマートピアニストでの設定のまま楽器を使うことができます。

1 楽器本体の画面横、操作ボタンが表示される部分を押します。

画面にメッセージが表示されます。



アプリ セッティング?
キャンセル[-] / OK[+]

2 接続を切断する場合は、[+]ボタンを押します。

キャンセルする場合は、[-]ボタンを押します。

■ 再接続するときは

スマートピアニストのメニューで、[楽器]をタップして楽器接続画面を表示させ(20ページ手順1～2)、
「P-S500」をタップします。

「P-S500」が表示されていない場合は、再度接続ウィザードを開始してください。

本体だけで演奏を楽しむ

楽器本体で操作できる機能を紹介します。スマートピアニストとの接続中は、楽器では操作できません。接続を解除してください(23ページ)。

1

FUNCTION

2

METRONOME

3

VOICE

4

STYLE

5

SONG

6

TEMPO

7

GUIDE

-

+

▶/■

1

FUNCTION (ファンクション).....27ページ

2

METRONOME (メトロノーム).....27ページ

3

VOICE (ボイス).....24ページ

4

STYLE (スタイル).....24ページ

5

SONG (ソング).....25ページ

6

TEMPO (テンポ).....26ページ

7

GUIDE (ガイド).....26ページ

設定値を変更します。押し続けると連続して値が変わります。[+]と[-]ボタンを同時に押すと初期設定に戻せます。

選ばれているスタイルまたはソングを再生/停止します。スタイルやソングを選ばずに押すと、最後に選んだものが再生されます。

ボイス、スタイル、ソングの一覧は、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。

さまざまな音色(ボイス)で弾く/[VOICE]

ピアノのほか、さまざまな音色(ボイス)で鍵盤を演奏できます。楽器では、01から100までのボイスを選べます。

- ボイス

1

[VOICE]ボタンを押したあと、[+]や[-]ボタンを使って選びます。



[VOICE]ボタンを押すたびに、ボイスカテゴリーが切り替わります。

- 2

鍵盤を弾いてみましょう。

スマートピアニストを使うと、ボイスを3つの鍵盤パート(メイン、レイヤー、レフト)で鳴らすことができます。すべての鍵盤でメインパート(1つのボイス)を鳴らすだけでなく、そこにもう1つの音(レイヤーパート)を重ねることもできます。また、レフトパートをオンにすることで、左側の鍵域では別のボイスを鳴らせます。レフトパートをオンにすると、鍵盤を左右に分ける位置(スプリットポイント)にあるストリームライトが点灯します。この位置は、スマートピアニストのボイス画面で変更できます。

自動伴奏(スタイル)と一緒に演奏する/[STYLE]

鍵盤を弾くだけで、演奏に合った伴奏(スタイル)が自動で再生されます。1人でも、バンドやオーケストラの伴奏と一緒に演奏しているかのように楽しめます。ポップス、ジャズなどいろいろな音楽ジャンルのスタイルがあります。楽器では、01から100までのスタイルを選べます。

- 1 ^{スタイル} [STYLE] ボタンを押したあと、[+]や[-]ボタンを使ってスタイルを選びます。



[STYLE] ボタンを押すたびに、スタイルカテゴリーが切り替わります。

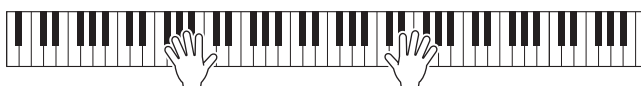
- 2 [▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押して再生をスタートします。

テンポの調節には、[TEMPO] ボタンを使います(26ページ)。

- 3 両手で鍵盤を弾くと、演奏に合わせて自動伴奏が変化します。

初期設定では、両手で自由に演奏するだけで、自動でコードが検出され、それに合わせて伴奏が鳴ります。

スマートピアニストを使って、コード検出エリア(フィンガリング)を「ロー」に変更すると、鍵盤の左手側(低音鍵域)がコードを指定するための鍵域となり、この鍵域でコードを弾くことで、自動伴奏をコントロールできます。初期設定に戻すには「フル」を選びます。



- 4 演奏が終わったら、[▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押して再生をストップします。

本体だけで演奏を楽しむ

曲(ソング)を再生する/[SONG]

楽器に内蔵しているソングを再生します。楽器では、00から100までのソングを選べます(00番はガイド機能デモ曲)。

- 1 ^{ソング} [SONG] ボタンを押したあと、[+]や[-]ボタンを使ってソングを選びます。



[SONG] ボタンを押し続けると、「00:クロックス (デモ)」の再生をスタートできます。

- 2 [▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押して再生をスタートします。

ソング再生中は、再生位置(再生中の小節番号/小節数)が表示され、ストリームライト(26ページ)が光ります。

- 3 ソングをストップするには、[▶/■](スタート/ストップ) ボタンを押します。

早送り/早戻しをする

ソングの再生中に、[+]または[-]ボタンを押します。1度だけ押すと、1小節だけ早送り/早戻しができます。押し続けると指を離すまで早送り/早戻しが続けます。

ソングの先頭に戻す

再生中のソングを先頭に戻すには、[+]と[-]ボタンを同時に押します。

くり返し再生する

[FUNCTION]ボタンを使って「ソングリピート」を呼び出し、くり返し再生のしかたを選びます(28ページ)。ソングを選んで再生すると、くり返し再生できます。

テンポを調節する/[TEMPO]

メトロノーム(27ページ)やスタイル(24ページ)、ソング(25ページ)の再生テンポを変えられます。[TEMPO]ボタンを押してから、[+]や[-]ボタンを使ってテンポを調節します。



[TEMPO]ボタンを複数回たたくと、たたいたテンポに切り替えられます。

ガイド機能を使ってストリームライツに合わせて練習する/[GUIDE]

ガイド機能を使うと、ソングの再生に合わせて片手ずつ練習できます。ストリームライツが、鍵盤を弾くタイミングや押さえる鍵盤を教えてください。

1 ソングを選びます(25ページ)。

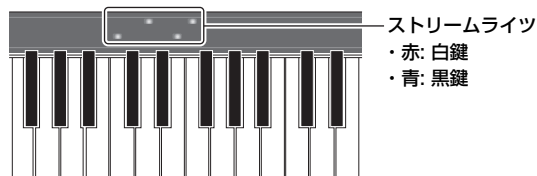
2 ^{ガイド}[GUIDE]ボタンを押したあと、[+]や[-]ボタンを使って練習するパートを選びます。

(ミギテ: 右手練習、ヒダリテ: 左手練習、リョウテ: 両手練習、オフ: ガイド機能オフ)



3 [▶/■](スタート/ストップ)ボタンを押して再生をスタートします。

手順2で選んだパートが消音された状態で再生され、ストリームライツが弾く鍵盤とタイミングを教えてください。ストリームライツのいちばん下のランプが光ったときが、そのランプの位置にある鍵盤を弾くタイミングです。正しい鍵盤を弾くまで他のパートが待ってくれるので、自分のペースで練習できます。



4 練習が終わったら、手順2の画面で「オフ」を選んで、ガイド機能をオフにします。

ストリームライツの速さやオン/オフは、スマートピアニストの[ソング] → (ソング選択) → [設定] → [再生]で設定できます。

メトロノームを使う/[METRONOME]

[METRONOME]ボタンで、メトロノームをスタート/ストップできます。正確なテンポで練習したいとき、また、実際のテンポを音で確かめたいとき、メトロノームをお使いください。テンポの調節には、[TEMPO]ボタンを使います(26ページ)。

さまざまな機能の設定をする(ファンクション)/ [FUNCTION]

1 ^{ファンクション} [FUNCTION] ボタンをくり返し押して、設定画面を選びます。

各設定画面について詳しくは、「ファンクションリスト」をご覧ください。

NOTE

[FUNCTION]ボタンを押したまま、[+]または[-]ボタンを押すことで、次または前の設定画面を表示させることもできます。

2 [+] / [-] ボタンを使って、設定値を変更します。

初期設定に戻すには、[+]ボタンと[-]ボタンを同時に押します。

3 設定画面を抜けるには、[+] / [-] 以外のボタンを押します。

ファンクションリスト

設定画面	説明	初期設定
トランスポーズ	弾く鍵盤を変えずにキー(調)を変更(トランスポーズ)できます。トランスポーズすることで、他の楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキーを合わせることができます。 設定範囲: -12 ~ 0 ~ +12	0
チューニング*	楽器全体の音の高さを約0.2 Hz単位で微調節できます。他の楽器やCDの再生音など、音の高さを正確に合わせたい場合に使います。 設定範囲: 414.8 ~ 466.8 Hz	440.0
リバーブ	さまざまな場所で弾いているような臨場感が得られる、リバーブの種類を選びます。選んだリバーブは、鍵盤演奏やスタイル/ソングの再生音、外部から入力されたMIDIデータすべてにかかります。 ・ リサイタルホール: ピアノリサイタル向けの中規模ホールのクリアな響き ・ コンサートホール: オーケストラの公演が行なわれる大きなホールの華やかな響き ・ チェンバー: 室内楽に適した、宮廷内の広間の落ち着いた響き ・ カテドラル: 天井の高い石造りの大聖堂の荘厳な響き ・ クラブ: ライブハウスやジャズクラブのメリハリのある響き ・ ノーエフェクト: リバーブはかかりません。 スタイルやソングを選ぶと、最適なリバーブが自動で呼び出されます。この楽器で選べないリバーブが呼び出された場合は、「(ジドウ)」と表示されます。	スタイル/ソングによる
リバーブフカサ(深さ)	リバーブのかかり具合を調整します。上記リバーブが「ノーエフェクト」の場合や設定値が0の場合、効果はかかりません。VRMボイス(19ページ)を選択中に設定値を変更すると、すべてのVRMボイスにこの設定が適用されます。鍵盤演奏だけでなく、ソングやスタイルに含まれるVRMボイスについても、リバーブのかかり具合が変わります。 設定範囲: 0 ~ 127	ボイスによる

設定画面	説明	初期設定
タッチカンド(感度)*	鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を変えられます。鍵盤自体の重さが変わるわけではありません。 ・ ソフト2: 軽いタッチで大きい音が出ます。 ・ ソフト1: ソフト2とミディアムの間です。 ・ ミディアム: 標準的なタッチです。 ・ ハード1: ハード2とミディアムの間です。 ・ ハード2: 強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。 ・ コティ: タッチの強弱にかかわらず一定の音量が出ます。	ミディアム
ヒョウシ(拍子)	メトロノームの拍子を選びます。1拍めでチーンと鳴り、それ以外の拍ではカチカチと鳴ります。「ベルオフ」ではすべてカチカチと鳴ります。拍子を「ベルオフ」以外に設定した場合、スタイルやソングを変更すると自動的にそれぞれの拍子に変わります。 設定範囲: ベルオフ、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4	ベルオフ
メトロノームボリューム*	メトロノームの音量を設定します。 設定範囲: 0 ~ 127	100
スタイルパート	再生するスタイルパートを選びます。 ・ スベテ: すべてのパート(1~8チャンネル) ・ リズム & ベース: リズムパートとベースパートのみ(1~3チャンネル) ・ リズム: リズムパートのみ(1~2チャンネル) スタイルを変更すると、自動的に「スベテ」に戻ります。 スマートピアニストや外部機器からのMIDI入力により再生パートを変更した場合には、「(ヘンコウアリ)」と表示されます。	スベテ
ソングリピート	ソングのリピート(くり返し)再生のしかたを選びます。 ・ オフ: くり返し再生はしません。選択中の曲が最後まで再生されると自動で再生がストップします。 ・ 1キョク: 選択中のソングをくり返し再生します。 ・ スベテ: すべてのソング(01から100)を順番に連続再生します。 ・ ランダム: すべてのソング(01から100)をランダム(順不同)に連続再生します。	オフ
MIDIチャンネル	この楽器での鍵盤演奏を、外部機器にMIDI送信するときのチャンネルを設定します。レイヤーやレフトパート(24ページ)がオンの場合は、下記のように送信されます。 ・ メインパート= n (設定値: 1~8) ・ レイヤーパート= n+1 ・ レフトパート= n+2 *8の次は1になります。スタイルパートは、設定値にかかわらず9~16チャンネルで送信されます。	1
オーディオループバック*	コンピューターやスマートデバイスからのオーディオ入力音を、楽器での演奏音と一緒に、コンピューターやスマートデバイスに出力する(オン)/しない(オフ)を設定します。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。	オン
ボタンサウンド*	操作ボタンを押したときに、音が鳴るか(オン)、鳴らないか(オフ)を設定します。	オン
オートパワーオフ*	オートパワーオフ機能(15ページ)の有効(ユウコウ)/無効(ムコウ)を選びます。	ユウコウ
ゲンゴ(言語)*	画面の表示を日本語(ニホンゴ)にするか英語(エイゴ)にするか選びます。この設定画面を抜けたときに、選んだ言語での表示に切り替わります。	ニホンゴ
バージョン	この楽器のファームウェアのバージョンを表示します。 ヤマハ製品では、機能や操作性向上のために、予告なくファームウェアをアップデートすることがあります。製品の機能を十分にお楽しみいただくため、最新バージョンにアップデートすることをおすすめします。最新のファームウェアは、下記ウェブサイトからダウンロードすることができます。 https://download.yamaha.com/jp/	--

*の項目は、電源を切っても設定が記憶(バックアップ)されます。

設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)

右端の鍵盤(C7)を押したまま電源を入れます。楽器の設定が、初期状態に戻ります。「ゲンゴ」(28ページ)の設定は初期化されません。



他の機器と接続する

楽器の背面にある端子に、他の機器を接続して、楽器と一緒に使って演奏を楽しめます。[AUX PEDAL]端子と[PEDAL UNIT]端子については17ページをご覧ください。ここでは、その他の端子について説明します。

⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切ったうえで行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

ご注意

外部機器を不安定な場所に置かないでください。外部機器が落下して破損するおそれがあります。

スマートデバイスを接続してアプリを使う([iPad]端子/[USB TO HOST]端子/[USB TO DEVICE]端子)

楽器に対応したスマートデバイスアプリを使うと、楽器をもっと便利に楽しめます。楽器に対応のアプリ、対応のスマートデバイスに関する情報は、以下のウェブサイトにある各アプリのページでご確認ください。

<https://jp.yamaha.com/kbdapps/>

「スマートピアニスト」との接続方法は、20ページをご覧ください。その他アプリを使う場合は、上記ウェブサイトの各アプリのページで接続方法をご確認ください。

NOTE

[iPad]端子と[USB TO HOST]端子の両方にスマートデバイスを接続して同時に使うことはできません。

外部オーディオ機器と接続する([AUX IN]端子、AUX OUT [R]/[L/L+R]端子)

楽器本体のスピーカーからオーディオ再生機器の音を鳴らす

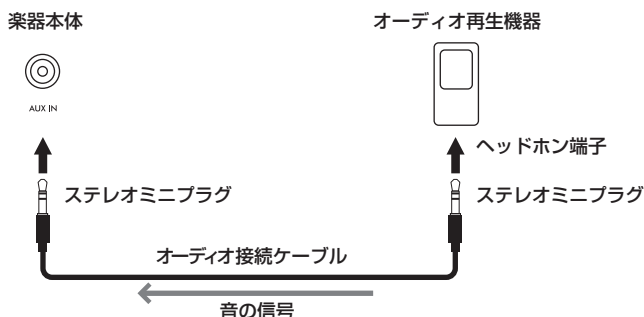
楽器の[AUX IN]端子と、スマートデバイスなどのオーディオ再生機器のヘッドホン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーからオーディオ再生機器の音を鳴らせます。

ご注意

外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音を楽器に入力するときは、次の順番で電源を操作してください。

電源を入れるとき: 外部機器→楽器

電源を切るとき: 楽器→外部機器



NOTE

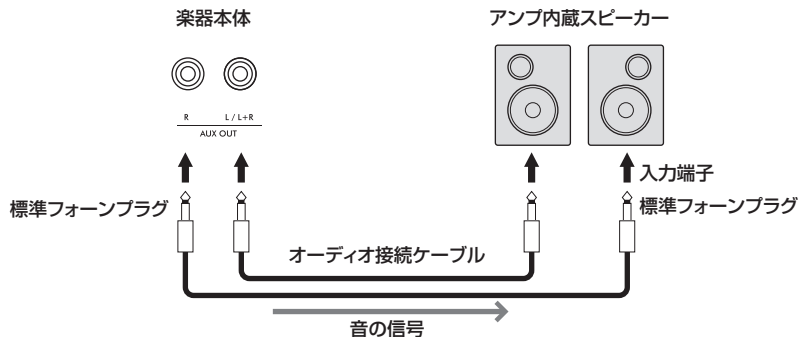
- オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- USBオーディオインターフェース機能を使うと、[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます(33ページ)。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす

AUX OUT [R]/[L/L+R]端子を使って楽器をアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で演奏を楽しめます。[AUX IN]端子や[MIC INPUT]端子からの入力音も一緒に出力されます。

ご注意

- 外部機器の損傷を防ぐため、楽器本体の音を外部機器に出力するときは、次の順番で電源を操作してください。
電源を入れるとき: 楽器→外部機器
電源を切るとき: 外部機器→楽器
- オートパワーオフ機能により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しないときは、この手順に従って手で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください(28ページ)。
- AUX OUT端子から出力した音を、[AUX IN]端子に戻さないでください(AUX OUT端子から外部オーディオ機器に接続したときは、その機器からふたたび楽器本体の[AUX IN]に接続しないでください)。楽器本体の[AUX IN]端子から入力された音はそのままAUX OUT端子から出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。



NOTE

- モノラル出力(スピーカーを1台だけ使う)のときには、[L/L+R]端子をご使用ください。
- アンプ側の入力端子がピン端子など、形状が合わないときは、変換プラグを使って接続してください。
- オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。
- ヘッドホンを接続してAUX OUT端子の出力音をモニターする場合は、バイノーラルサンプリング/ステレオフォニックオブティマイザー (19ページ)をオフにすることをおすすめします。オン/オフはスマートピアニストの[ユーティリティ] → [音響設定] → [バイノーラル]で切り替えられます。

他の機器と接続する

マイクを接続する([MIC INPUT]端子)

[MIC INPUT]端子にマイクを接続すると、弾き語りやカラオケが楽しめます。マイクに入力した音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。また、スマートピアニストの[ユーティリティ] → [マイク設定]で、歌声にハーモニー (ボーカルハーモニー) を付けることもできます。

- 1 楽器の電源を入れる前に、**マイク ボリューム** [MIC VOLUME]つまみをMIN (最小)の位置に回します。

- 2 **マイク インプット** [MIC INPUT]端子にマイク(モノラル標準フォーンプラグ)を接続します。

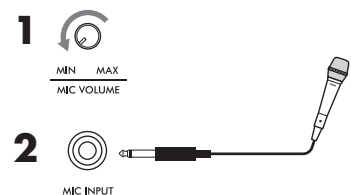
NOTE

マイクは、ダイナミックマイクロフォンをお使いください。

- 3 楽器の電源を入れます。

- 4 (必要に応じてマイクをオンにして、)マイクに向かって声を出しながら、[MIC VOLUME]を調整します。

- 5 マイクを使い終わったら、[MIC VOLUME]を最小(MIN)にしてからマイクを外します。



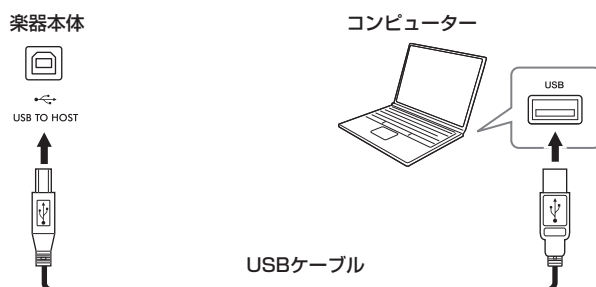
コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとデータをやり取りしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。

コンピューターとの接続方法など、詳しくはウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

ご注意

- USBケーブルは、ABタイプのものご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。
- DAW (Digital Audio Workstation)などの音楽制作アプリケーションと一緒に使用する場合、設定によっては大きな音が発生することがあるため、オーディオレベルバックをオフにしてご使用ください(33ページ)。



NOTE

- 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続するときは、ハブを経由せず直接接続してください。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。
- USB無線LANアダプターではコンピューターには接続できません。
- 楽器本体は、USB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 楽器とスマートピアノの接続中は、楽器からのMIDI出力はできません。
- [USB TO HOST]端子と[iPad]端子の両方にコンピューターとスマートデバイスを接続して同時に使うことはできません。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能) ([USB TO HOST]端子、[iPad]端子)

この楽器は、[USB TO HOST]端子や[iPad]端子を使って、コンピューターやスマートデバイスと接続するとオーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェース機能といい、たとえば次のようなことができます。

■ オーディオデータを高音質で再生

[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。

■ 録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音

録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。

コンピューターとの接続方法など詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。

スマートデバイスとの接続方法は21ページのケーブル接続例をご覧ください。

NOTE

Windows搭載のコンピューターでは、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。

オーディオループバックのオン/オフを設定する

USBオーディオインターフェース機能(上記)やWi-Fi接続(22ページ)により、コンピューターやスマートデバイスから楽器に入力したオーディオ音を、楽器での演奏音とともにこれらの機器に出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合は、オフにします。たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。設定は、[FUNCTION]ボタンから行います(28ページ)。

NOTE

- [AUX IN]端子からの入力音はオーディオループバックの対象外です。
- スマートピアノニストを使ってオーディオ録音すると、この設定がオンのときは、外部機器からのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。

困ったときは

アプリについては、アプリ内ヘルプをご覧ください。アプリ「スマートピアニスト」は、画面左上の「三」（メニュー）から、[ユーティリティ] → [システム] → [よくある質問]で確認できます。

現象	原因と解決法
電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていません。電源プラグを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(14ページ)。
電源が勝手に切れる。	オートパワーオフ機能が働いたためです。故障ではありません。オートパワーオフの設定を変更してください(15ページ)。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	この楽器の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。そのため、ピアノ同様に機構音が出ます。異常ではありません。
楽器本体のスピーカーやヘッドホンから雑音が出る。	楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出ることがあります。近くに携帯電話を置かないでください。
スマートデバイスと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスの通信によるノイズです。ケーブルで楽器と接続するか、機内モードなど電波が発しない設定にしてから、Wi-Fiのみをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
全体的に音が小さい。 または、まったく音が出ない。	音量(マスターボリューム)が下がっています。[MASTER VOLUME]スライダーで音量を上げてください(15ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[PEDAL UNIT]端子にしっかり差し込まれていません。本体の電源を切った状態で、ペダルコードのプラグを[PEDAL UNIT]端子に確実に差し込んでください。その際、プラグの金属部分が見えなくなるまで、しっかり差し込んでください。
鍵盤で弾く音がメトロノームの音に比べて小さい。	メトロノームの音量が上がっています。メトロノームの音量を下げてください(27ページ)。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノのボイスでは、ピアノ本来の音をできる限り忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。異常ではありません。
トランスポーズを設定したときに、高い方や低い方の音がおかしい。	トランスポーズを設定したときに、発音できる音域はC-2~G8です。C-2より低くなる音は1オクターブ上の音で、G8より高くなる音は1オクターブ下の音で鳴ります。
外部スピーカーから鳴る音や、オーディオ録音した音の鳴り方がおかしい。	「バイノーラル」の設定がオンになっているためです。「バイノーラル」がオンの状態で、ヘッドホンを接続すると、VRMボイスには、ヘッドホン以外で鳴る音にもバイノーラルサンプリングまたはステレオフォニックオブティマイザー(19ページ)の効果がかけられます。初期設定では、オンです。オン/オフはスマートピアニストの[ユーティリティ] → [音響設定] → [バイノーラル]で切り替えられます。
画面にエラー表示が出て対処したが、メッセージが消えない。	[+]ボタンを押してください。

本体仕様

			P-S500
品名			電子ピアノ
サイズ/質量	寸法(幅×奥行き×高さ)		1,329 mm × 410 mm × 167 mm
		譜面立てを立てた場合	1,329 mm × 410 mm × 283 mm
	質量		21.8 kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマースタANDARD(GHS)鍵盤 黒鍵マット仕上げ
		タッチ感度	ソフト2/ソフト1/ミディアム/ハード1/ハード2/固定
	ディスプレイ	タイプ	フルドットLCD
		サイズ	80×16 ドット
		言語	日本語、英語
	パネル	タイプ	タッチセンサー
		言語	英語
ファンクション	USBオーディオインターフェース機能		44.1 kHz、16 bit、ステレオ
	レッスン/ガイド		○ (ストリームライツ付き)
音源	音源	ピアノ音	ヤマハ CFXサンプリング、 ペーゼンドルファー インベリアルサンプリング
		バイノーラルサンプリング	○ (「CFXグランド」のみ)
	ピアノ音源の効果	バーチャル・レゾナンス・ モデリング(VRM)	○
		キーオフサンプリング	○
	最大同時発音数		256
	対応フォーマット		XG、GS、GM、GM2
	接続端子	DC IN	
ヘッドホン		ステレオ標準フォン端子(×2)	
マイク		マイク入力(モノラル標準フォン端子)、インプットボリューム	
AUX PEDAL		○	
PEDAL UNIT		○	
AUX IN		ステレオミニ端子	
AUX OUT		標準フォン端子(R、L/L+R)	
USB TO DEVICE		○	
USB TO HOST		○	
iPad		5V、2.1A	
音響		アンプ出力	
	スピーカー		(楕円(12 cm × 6 cm) + 2.5 cm (ドーム式)) × 2
電源部	電源アダプター		PA-500
	消費電力		40 W
	オートパワーオフ		○
付属品			- 取扱説明書 - 製品登録のご案内 - 保証書 - 電源コード、電源アダプター PA-500 - 譜面立て - フットスイッチ

楽器単体またはスマートピアニスト接続時にできること

		P-S500	P-S500 + スマートピアニスト
言語		日本語/英語	メニュー：日/英/独/仏/西/中 メッセージ、ヘルプ：26言語対応
ピアノルーム(ピアノ音の各種設定)		—	○
ボイス	ボイス数	100	660
	レイヤー (2つの音を重ねる)	—	○
	レフト(左右の手で別々の音を鳴らす)	—	○
	スプリットポイント変更	—	○
	オクターブ	—	○
スタイル	スタイル数	100	370
	コード検出エリア	フル(変更不可)	フル/ロワー
	イントロ/エンディング	オン(変更不可)	オン/オフ
	セクションの切り替え	—	メイン × 4
	シンクロスタート	—	○
	再生パート	すべて/リズム&ベース/リズム	8つのパートごとにオン/オフ可
効果	リバーブタイプ	5タイプ	58タイプ
録音	MIDI	—	○ (SMF フォーマット0)
	オーディオ	—	○ (WAV, AAC)
ソング	再生曲数	100	403
	ストリームライツの設定	オン(変更不可)	オン/オフ、速さ
	ガイドタイプ	コレクトキー (変更不可)	コレクトキー / エニーキー / ユアテンポ
	楽譜/コード/歌詞表示	—	○
	オーディオトゥースコア	—	○
	A-Bリピート	—	○
レジストレーションメモリー		—	○
メトロノーム		○	
テンポ		5～500、タップテンポ	
バランス(各パートの音量設定)		—	○
ユーティリティ	トランスポーズ	鍵盤	鍵盤/スタイル、ソング
	チューニング	414.8～440.0～466.8 Hz (0.2 Hz単位)	414.8～440.0～466.8 Hz (0.2 Hz単位)、音律9タイプ
	鍵盤設定(タッチ感度)	ソフト2/ソフト1/ミディアム/ハード1/ハード2/固定	
	ペダル設定	—	○ (機能選択可)
	マイク設定	—	○ (ボーカルハーモニーなど)
	マスター EQ	—	○
	音響設定	—	○ (バイノーラル、IACなど)
	オートパワーオフ	無効/有効	無効/有効(時間設定可)

その他にもスマートピアニストで設定できる項目は多数あります。スマートピアニストでご確認ください。

別売品

- キーボードスタンド L-300B、L-300WH
- ペダルユニット LP-1B、LP-1WH
- フットペダル FC3A
- フットスイッチ FC4A、FC5
- ヘッドホン HPH-150、HPH-100、HPH-50
- 電源アダプター PA-500
- USB無線LANアダプター UD-WL01
- ワイヤレスMIDIアダプター UD-BT01

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。本書の最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

Apache License 2.0

Copyright (c) 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at

www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Modified BSD license

COPYRIGHT(c) 2016 STMicroelectronics

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of STMicroelectronics nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

索引

ア

アプリ30

イ

インテリジェント・アコースティック・コントロール(IAC)
.....15

オ

音色(ボイス)24
音量(マスターボリューム)15
音量(メトロノーム)28
オーディオ機器30
オーディオトゥースコア10
オーディオループバック28, 33
オートパワーオフ15, 28

カ

ガイド26

キ

曲(ソング)25
キーボードスタンド17

ク

くり返し再生28

ケ

言語28

コ

コンピューター32

シ

初期化29

ス

スタイル24
スタイルパート28
スタンド17
ステレオフォニックオブティマイザー19
ストリームライツ26
スマートピアニスト20

セ

接続ウィザード20
接続(外部機器)30
接続(スマートピアニスト)20

ソ

ソング25

タ

タッチ感度28

チ

チューニング27

テ

電源14
テンポ26

ト

トランスポーズ27

ハ

バイノーラルサンプリング19
伴奏(スタイル)24
バージョン28
ハーフペダル18

ヒ

拍子28

フ

ファンクション27
フットスイッチ17
譜面立て16

ヘ

ペダル17
ペダルユニット17
ヘッドホン19

ホ

ボイス24
ボタンサウンド28

マ

マイク31

メ

メトロノーム27

リ

リバーブ27
リピート再生28

I

IAC (インテリジェント・アコースティック・コントロール)
.....15

M

MIDIチャンネル28

U

USBオーディオインターフェース33

V

VRM19

保証とアフターサービス

サービスのご依頼やお問い合わせは、お買い上げの販売店、または右記の修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本製品には保証書が付いています。
「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げの販売店、または右記の修理ご相談センターへご相談ください。

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または右記の修理ご相談センターへご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

● 修理に関するお問い合わせ

修理ご相談センター

フリーダイヤル



0120-149-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(祝日、センター指定休日を除く)

FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海)

03-5762-2125

西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄)

06-6649-9340

● 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00

(祝日、センター指定休日を除く)

* お電話は、修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2丁目1-1

JMT京浜E棟A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17

ナンバ辻本ビル7F

FAX 06-6649-9340

*名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

◆製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

お買い上げの販売店、または下記のお客様コミュニケーションセンターへ
お問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター
電子ピアノ・キーボードご相談窓口

フリーダイヤル



0120-139-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4079

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 17:00（祝日、センター指定休日を除く）

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート
LINE 公式アカウント

◆ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社ホームページ	https://jp.yamaha.com/
ヤマハピアノ・電子ピアノサイト	https://jp.yamaha.com/piano/
ヤマハ サポート・お問い合わせ	https://jp.yamaha.com/support/
ヤマハミュージックデータショップ	https://yamahamusicdata.jp/

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1

* 名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

© 2020 Yamaha Corporation
2025年3月 発行
KSMA-C0



VDQ8200